

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告

さくら幼稚園

1 本園の教育目標

・丈夫な子ども ・心豊かな子ども ・意欲のある子ども

2 今年度の重点目標

家庭との信頼関係を築き連携して、どの子ども生き生きと活動できる教育の実践を目指す

3 評価項目と評価結果

	評価項目	評価内容	平均	全体平均
			中央値: 2.5	
I	教職員相互の協力・連携	① 職員全員で一つのチームであることを意識している	3.2	3.0
		② 他の職員の意見を聞いたり、自分の意見を発言したりしている	3.0	
		③ 必要なことは園長や教頭に報告、連絡、相談している	3.1	
		④ 職員同士、信頼できる人間関係を作っている	2.9	
		⑤ 職員間で協力して指導にあたっている	2.9	
II	教師としての資質や保育の質の向上	⑥ 幼児の話をよく聞き、内なる想いやサインを受け止めている	3.2	2.9
		⑦ 幼児の発達の姿や課題について見通しをもって計画的に指導している	2.6	
		⑧ 計画の評価、反省を行い、次に生かせるよう努めている	2.8	
		⑨ 幼児が自ら考えたり、工夫したりできるように見守るとともに、環境を整えている	2.7	
		⑩ 幼児同士のトラブルに対して適切な対応をしている	3.0	
		⑪ 幼児一人一人の発達、個性、特性等に応じて、適切な対応をしている	2.9	
		⑫ 一人一人の幼児を理解するために、保護者と話し合うよう心がけている	3.0	
III	カリキュラムの改善	⑬ 各クラスの活動を、教育課程や年間指導計画と関連付けて計画し、実施、評価、改善につなげている	2.8	2.6
		⑭ 年間の活動に見通しをもって、取り組んでいる	2.6	
		⑮ 「10の姿」を意識した計画を立案している	2.2	

#### 4 評価結果と今後取り組む課題

##### I 教職員相互の協力・連携について

他の項目に比して高い数値であり、職員間の連携が、さくら幼稚園の強みであると言える。職員全員がワンチームであることを意識し、「報・連・相」に努めている。一方で、職員間の協力体制がやや不足であるという結果であった。

次年度は、行事に関して企画段階から全員が参画し、役割分担を明確にするなど、協力体制をシステム化していく。

##### II 教師としての資質や保育の質の向上について

教員たちは子どもの話をよく聞き気持ちを受け止め、保護者との良好な関係を築くよう努力をしていることが評価できる。しかし、子どもの姿や課題について計画性をもって指導すること、実施後の反省を次に生かすことが十分ではないと感じている。また、子どもたちの主体性や創造性を伸長する教育活動を、もっと用意できるのではないかと評価している。

次年度は、従来から大切にしてきた教育活動を、改めて確認し合う機会を作ったり、子どもの支援内容や方法を相談し合う機会を設けたりして、子ども一人一人の姿や課題について整理し、計画的な指導が行われるようにするとともに、教員の資質向上のための園内研修や会議を設ける。

##### III カリキュラムの改善について

3項目の中で一番低い数値となった。教育課程、年間指導計画、月案、週案を関連付けて指導するよう努めているが、教育活動ごとのPDCAサイクルや、「10の姿」を意識した計画立案において十分な取り組みになっていなかったことが課題であった。

現在使用している各計画を見直し、教育活動ごとにPDCAサイクルが明確に見えるよう様式や手順を検討し、実施していく。そのことにより、子どもが主体的にかかわる遊びや生活、教育活動を意図的、計画的に構成できるようにする。

#### 5 学校関係者評価委員の意見

どのクラスも子どもたち一人一人が、興味あることに夢中になって取り組んでいる様子がみられた。自己肯定感も高く、自信を持って活動している子も多い。今年度新しく取り組んだホームページを活用したクラスだよりについて、保護者からは物足りないという意見が聞かれたが、担任の想いを強く伝えたり、親しみやすさを取り入れたりしてホームページに掲載する内容をもっと工夫し、親子で見てもらえるよう働きかけてはどうか。